

令和5年度 第4回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会 議事録

開催日時 令和5年11月13日 午前10時から11時30分まで

会 場 我孫子市水道局大会議室

出席者 委員11名、事務局10名（傍聴人3人）

【本議事録の表記に関して】

議事途中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。

布佐小学校：布小

布佐南小学校：南小

布佐中学校：布中

布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

会議資料「検討視点と施設形態のメリット・デメリットについて」：表

1 開会

（省略）

2 教育長挨拶

本日は令和5年度第4回の検討委員会開催になる。よろしくお願ひしたい。市内の小中学校ではインフルエンザにかかる児童生徒が多く、学級閉鎖の学校もある。今までは季節外れのインフルエンザと言っていたが、これからは本格的にインフルエンザの季節が到来するため危機感を持っている。ある小学校では、本日6年生の校外学習を予定していたが児童の3分の1近くがインフルエンザで欠席になり、日を改めている。体調不良の子は学校に登校しないこと、学校生活では十分に換気をすることに気をつけて生活をさせていきたい。

さて、今まで3つの施設形態に関してのメリット・デメリットについて協議してきたが、今回が最後になると思う。次回は提言書の内容についての確認や修正等になると思うので、本日もいろいろな意見をいただきたい。布佐地区の児童生徒にとって、最適な教育環境と学校の在り方について、十分検討していただけるようお願いしたい。

3 資料「検討視点と施設形態のメリット・デメリットについて」（以下、表）の最終確認

（委員長）初めに、前回の確認事項2点について事務局から説明を願う。

①国道356号線の歩道の拡幅について。

②南新木地区の学区外就学の状況と今後の児童数推移について。

（事務局）①道路課を通じて確認したところ、千葉県拡幅工事については令和7年度を予定しているとのことであった。

②南新木1丁目、2丁目は南小の学区だが、学区外就学で新木小学校に通っている児童数は77人である。また、令和5年5月1日現在でこの地区における就学前の子ども的人数は、0歳児から5歳児まで約100人である。

（委員長）この地区に住む約100人の子どもたちが順次学校に通うが、どの学校へ入学するかは就学前に学区外申請が提出されて分かるものである。

次に、表について、最終確認になるため意見や質問があれば積極的にお願いしたい。この表や今まで議論してきたことを踏まえ、提言書になる。各委員においても自身の中で方向性はある程度定まっても、検討する施設形態の中でどれが良いとはなかなか言いづらいと思う。例えば、③がいいがこの部分はこうしてほしいとか、そういうのも含めてこういうメリット・デメリットがある等、意見をいただきたい。多数決で検討委員会の意見とするのはできないものであり、各委員の意見を聞き積極的に議論していただけると嬉しい。

それでは、項目や分類などは関係なく意見のある方は述べていただきたい。

（委員）事前に表を資料としていただき検討することができ良かった。表の内容について、何点か検討事項を発表したい。まず初めに、③の児童生徒視点の項目5の学校行事について、学校行事における保護者の駐車場の確保、運動会の家族毎のスペースが取れるのかという部分について課題があると思う。次に同項目6の通学距離について「南新木地区は新木小も近いため『布小の位置に通うなら新木小へ通う』という意見が出る可能性を懸念している」ということで、先ほど報告のあった南新木地区の今後の児童数を考えると、検討事項になると思う。

また、保護者視点の項目1保護者組織、項目2放課後保育について、小中一体化となったときのPTA組織と学連協組織はどうなるか。これも前回意見が出ており、将来的にはどういう形にするか十分検討する必要があると思う。同じ

ように、学童保育についても小中一体化になった場合の検討事項として挙げられる。

その他視点の項目6について、国道356号の歩道拡幅工事については先ほど令和7年度工事との説明があった。先日、356号布小入り口の交差点付近の歩道で事故があった際に地元自治会が道路課に確認したところ、来年（令和6）度にも拡幅できるのではないかと話を伺ったと聞いている。令和6年度か令和7年度かをもう少し詰めていただきたい。他に自身が感じたことは③の追加意見としてまとめができており、提言にできるのではないかと考えている。

（委員長）③の施設形態の方向で進められるのではないかと意見であった。また、学校行事時の駐車スペース、学区外就学の問題、保護者組織や学童保育施設、国道356号拡幅工事等が課題であるという意見をいただいた。同じような項目でも良いので他に意見があればお願いしたい。

（委員）自身からは2点ある。1点目は、表の追記部分について書き方を工夫したい。この表は提言書の参考資料として添付するものとして理解している。例えば、児童生徒視点の項目5「学校行事の行事の際の保護者駐車場の確保はどうなるのか」など表現が疑問点で終わっている部分は、「～について今後検討が必要である。」のようなまとめ方にして書面を整えたい。他にも疑問点の表現で終わっているものがあるので統一してほしい。

2点目は、その他視点の項目3③にある「小学校2校を一体化になる案はなかったのだろうか」は自身が発言したものだが、書き方として唐突な印象を受ける。発言の意図としては、学校施設と建設コスト面からの発言であるので、位置づけとしては「既存の施設を生かす案として、小学校2校を一体化にする案は～」というように訂正していただきたい。

（委員長）書き方の問題ということで、文章が疑問で終わってしまうのは検討していないように感じるため、例えば「保護者の駐車場の確保をできるようにしてほしい」とか要望的な表現で書ければよいということか。

（委員）そのように思う。提言書ということで、今後進めていく上でのポイントがまとまっている書面にすべきと思うので、課題について今後検討するというような書き方でよいと思う。

（委員長）また、その他の施設等コスト面からみた場合、2校の小学校を一体化するという提案をいただいたが、既存の施設を利用するというのがベースに

あるということが主旨にあり、書き換えてほしいという申出があった。事務局の方では、資料の書き方についてよろしくお願ひしたい。

さて、委員にお聞きしたいが、施設形態に対する①②③ではどれを推すのか伺いたい。

(委員) 事前に資料を読み直してみて、③の施設形態の方が今後進めていく上での地域のマスタープランや布佐中学校区小中一貫教育グランドデザインからも合致していると思う。課題も今後詰めていく必要がある。建設におけるコスト面やスケジュール等いろいろな課題はあるが、引き続き検討していけるということで、③をベースにいろいろな検討を進められたらと思う。

(委員長) 施設形態の方法としては③で、課題等について明確にしながらかそれをどう解決していくか等を踏まえて進めて行ければ良いということでお願ひしたい。

各委員からも順に発言をいただきたい。

(委員) 自身も③へ向けて検討を進めたい。表に記載した課題について、できるだけ実現できるような形で検討を進めてもらいたい。5年後、10年後、20年後の布佐地区の人口構成では、今の状況から鑑みても、子どもの人数が減少する傾向になるような気がするため、そういう側面からもみて三校が一つになった形での方向が良いと思う。また、この資料は大人目線のため、児童生徒からみた感触や意見等を聞けるような機会があれば聞いてみたいと思う。

(委員長) 事務局では子どもたちの意見を聞くようなことは考えているのか。

(事務局) 検討したいと思う。

(委員長) 検討をいただき、子どもたちの意見も反映されると良いということでお願ひしたい。

(委員) 布佐地区三校の地域は、今後、大手開発の分譲というのは見込めないと思う。調整区域という住居が建てられない地域のため、人口が大幅に増えることがない前提である。南小、布小ともに建設から40数年を経過しており、児童数も少なく、現状を考えた時に、まず大切なのは子どもたちの教育環境である。児童数が増えないものをどうしたら良いかと考えたら、小中一貫校の方向にいくのが子どもたちのためになると思う。教育に対する親の不安材料を取り除けると思う。

また、不登校の問題に対しても、小中一貫のため小学生、中学生が同じ敷地の中で生活することにより解消されるのではないかと思う。教員についても人数が増えるため、同じ学年の教員同士でミーティングもでき、病気や怪我などの時は補填もできると考える。

(委員長) 方向性としては③ということでの意見であった。課題について、新たに付け加えるようなものはないか。

(委員) 学校行事の際の保護者の駐車場問題があると思う。小中一貫校となった場合、校舎の建築面積の他に、空きスペースがどのくらいあるか等は今悩んでも仕方がないことである。

(委員長) これらも踏まえて、設計段階において加味していただきたい。

(委員) 自身も検討する施設形態の案では、③の案が良いという印象がある。理由として、今後の布佐地区の人口推移から見た面と、我孫子市において布佐地区を小中一貫校のパイオニア的な存在として考えていただきたい。また、表の内容に関しては、疑問点がまだ検討中であるのかそれとももう解決しているのかが文章の語尾で分からないところがあるので、そういった所を加筆し資料として提出していただきたい。

柏市でも数年後に小中一貫校が開設すると広報やホームページで公表されている。柏市の資料によると、一般的な教室の面積が64㎡に対し、新校舎は80㎡の広い教室で建設予定ということが書かれていた。隣の柏市でも計画しているのでぜひ見学して検討していただきたい。

(委員長) 柏市は布佐中学校区より早く小中一貫校が完成するため、実際に見に行ってもらいたい。また、小中一貫ということで③を見据え、課題等については明確に分かるような形で記載をしてほしいとの意見で、提言書の内容等についてはこの委員会で検討していきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(委員) 自身が思うことは、これからの未来をつくる子どもたちに一番何が必要なのか、どうしたら子どもたちに良い教育ができ、そこに関係する大人たちや地域の人たちもよかったと思える学校づくりをしていくにはどうしたら良いか考える。それには現状のままではなく、三校を一体型にすることが一番良いと思う。また、学校はコミュニティ・スクールという考えをしているため、今の学校づくりではないことを願ひたい。もっと体験ができるような学校づくりをしてほしい。南小は、体験を重視した授業を取り入れているため、新しい

学校においても継承していただき、子どもたちが使いやすく、そして教育もしやすい場面をもっと考える必要があると思う。

もう一つお願いしたいことがある。自身は放課後に子ども学習室というのを手伝っている。そこで感じたことは、これから集う場を作るならば、学校と地域の中の違ったところではなく、地域のコミュニティ・スクールとして考え、高齢者や、保護者の方々が集まるような場があれば、もっと子どもたちを地域で育てるような環境になるのではないかと思う。自身も三校一体型を支持するが、今までにない我孫子市の学校づくりをもっと検討しながらつくっていただきたい希望である。

(委員長) 方向性としては③だけれども、もっと我孫子の特色、布佐地区の特色が前面に出るような校舎であり、その中身である教育も工夫し、コミュニティ・スクールを踏まえた地域の人たちが集まれる場としての活用等、子どもたちとの関わりも含めて検討していただきたいという意見であった。

(委員) 自身もこの3つの案で検討してきた中では、子どもの人数の状況や、施設の老朽化等も考えても、課題はあるが③で新しく小中一体型の学校を造る方が良いと思う。市内の小中一貫教育においては、布佐地区は他の地区よりも進んでおり交流も盛んであるが、やはり施設が分かれている点は制約があると思う。布小と布中でも建物が違うので、一緒に建物ならいろいろなことができるのではないかと感じる部分もある。そういったことから施設一体型であれば、子どもたちの学ぶ環境というのも、いろいろな方向や可能性を探って広げていけるのではないかと感じている。

また、教員数についても、中学校なので規則上、担任以外の教員も多い環境で行っているため、子育て世代の教員が多く、家庭の都合で休むことになっても何ら子どもたちに影響なくできるが、おそらく布小や南小は担任以外の教員が1人くらいしかない状況のため、教員の配置からみても小中一貫校とした方が教員にも余裕があり、子どもたちに還元できるものが大きいと感じる。

(委員) 自身も結論から申すと、今抱えている課題を解決できる方法は③の施設形態だと思う。他の委員からもあったように、小中一貫教育やコミュニティ・スクールを現在進めている中で、やはり課題となっていることは、一緒に行事を行うにしても日程がなかなか合わない等が挙げられる。また、地域の

方々も学校を一体化としてコミュニティ・スクールを進める中でも、学校が分かれているため苦勞されている面もあると感じている。

そして、何よりも子どもたちの多様性があつた方が良いということが、この検討委員会を通してより考えるようになった。児童生徒数が多ければ学びや心の交流といった面でも広がりがあり、子どもたちにとっても教員にとってもやはり適正規模の意味ということ改めて感じたところである。

議論の中で、③になったときの登下校の安全、時間等については、子どもたちの大きな負担となるので、この点は課題として思うところである。

また、どの学校の子どもたちもそれぞれ愛校心があり、自身も自校に愛着をもっている。先ほど話のあつた、子どもたちに意見を聞くとなつたとき、どの子どもたちも今の学校が無くなるという感覚は持つと思う。子どもたちの意見は知りたいと思うが、聞き方としてはとても慎重に行わなければならない。やはり無くなるという印象がどうしても払拭できないため、それをどのように前向きに持っていくかというところで意見を聞くことも大事であると思う。

(委員長) 聞き方の問題は大事なことだと思う。③の方向が妥当であろうという意見であつた。

(委員) 自身も③を支持したいと思う。他の委員の意見のとおり、やはり今までにない学校づくりをとという思いはある。学校建設については、国の補助金やいろいろな関係があり、お金の部分で制約があるかもしれないが、できるだけ単費で捻出し良い学校を造れば良いと思う。先ほど、子どもに意見を伺うことについては、委員が話されたとおりだと思うし、いろいろな課題について解決できるのは③番であり、小中一貫教育を進めていく上では、やはり③が一番よいと思う。

表の中で、スクールバスの利用について記載があるが、南小地区と一緒に布小区についても検討の中に入れていただければと思う。

(委員長) 方向性としては③で、スクールバスの件について意見を伺つた。スクールバスを検討するのであれば、布佐地区全てのエリアを検討対象にしてほしいということである。

(副委員長) 自身が気になるのは、学童保育についてである。一体化した後に各地区に分室を置くのか未定であるが、もう少し計画が具体的になれば、現実的な話になるだろう。また、小中一貫教育の推進を図る上でもやはり一体化の

校舎が理想的だと思う。地域を生かした特色ある科目や授業をアピールして、我孫子市全体から通いたくなる学校になれば良いと思う。自身も三校を小中一貫校というのを率先していただければと思う。

(委員長) 委員皆さんの方向性としては③番ということで、一致したような感じである。ハード(建物)面をどうするのかというのはあるが、先生方や子どもたちのソフト面についても、十分特色を生み出せるようなものにしていただきたい。

この3年間は、コロナ禍で子どもたちの学校生活においても大きく影響があり、授業を分断して行うこともあった。1人での学びでできること、みんな一緒にやらないとできないこと等がはっきり見えた3年間と思うところがある。

コロナも5類になり、学校でも以前のようなグループでの関わりを作ったりしていると思う。学びを深めていくには人と協働することが重要であり、グループでのやり取りをするのは学校の中でしかできないことである。長期欠席になっている子どもたちの居場所をどう作っていくかも含め、学校の存在意義はとても大きくなっていると思う。

布佐中區で小中一貫校ができたときに、子どもたちの学びや長期欠席者の居場所等を含めて、問題解消ではなく事前にそのようなことが生み出されないような学校になれば、他の地区からも通いたくなるような学校ができるのではないかと考える。建物で人を惹きつけるというものもあるが、その中にいる子どもたちや先生方の姿で惹きつけられるような学校になってくれたらと思う。是非、ハード面の課題も含めてソフトの面でもどう作っていくかというのを、今から各三校で検討しながら取り組んでいただきたいと思う。三校が一緒になるだけで教育が変わるということはある得ないため、今から変えるべきところ、見直すべきところは見直しながら改善を図り、三校が一緒になったときに、より効果が大きくなるような学校になっていただければ良いと思う。

(委員) 我孫子市の人口が約13万人で、そのうち布佐の人口が約1万人くらいである。我孫子市からみた布佐地区の人口は約8%の割合である。新しい学校づくりを布佐地区で行い、学校教育が素晴らしければ、他の地区に住んでいる方も興味を持ち、市のパイオニア的な学校になるのではないかと感じる。

(委員長) 地域の学校であり、布佐地区にとってメリットの大きい学校づくりをしていかなければならないと思う。布佐の小中一貫校があるから、その地

区に住んでみたい、もっと極端に言えば、不動産の地価が上がるくらいの人気が出るということも踏まえるくらい、学校の持つ役割はとても大きいと思う。今、委員の話にもあったが、そのようなことも踏まえて提言書の中に盛り込めたらよいと思う。

次に、提言書の素案の確認をしたい。事務局の方から説明を願いたい。

4 提言書素案の確認

(事務局より提言書素案の説明)

(委員長) 提言書の素案について質問、意見等があればお願いしたいが、まず自身から質問させていただきたい。小中一貫校の大きな目的があり、それは小中一貫ランドデザインのところに書き込まれているのか、それとも違う形なのかというところが見えたら良いと思う。そのようなものは何かあるだろうか。ランドデザインはソフト面から見た側面で書かれていると思う。小中一貫校のハード面については、どこかに出てくるのかなど、あるいはそういうものを含めて、このような意図でこういう学校づくりを行い、このような子どもたちにしていきたい等、大きく目指すものを書ければ良いというようなイメージをしているがいかがか。

表の「その他」の中で皆さんから意見をいただいたが、これは、提言書の中では「2-4まとめ」に繋がってくるのではないかと思う。

今回出た意見の中で、施設のハード面についていろいろ話し合ったが、そうでない部分についても意見が出てきたので、そういうものも踏まえて、このような意図で小中一貫校について検討し、その方向を目指してほしいというような書き口が入ると分かりやすいと思う。

(事務局) 「2-4まとめ」の中で本日いただいた意見やコミュニティ・スクールのあり方等も含めてまとめますので、次回ご検討いただきたい。

(委員) 確認したいことが2点ある。初めに、この提言書がどのように公表されリリースされるものなのか。次に、提言書の項目2で「検討内容の取りまとめ」に入るが、今まで検討してきた表の①から③の案で検討していく等の文章がどこに掲載する予定なのかを確認したい。

(事務局) 1点目の提言書については、次回ご確認いただき、最終的に取りまとめを行い、委員長から教育長へ提言書を提出する予定である。

2点目について文章を載せるとすれば「1はじめに」の部分か「1-4布佐中区の教育の現状」のところに、「現状を踏まえて新しく施設を考えるとすれば、①②③の3つのパターンに絞って検討を進めていくこととした」というような文章を作成することになるかと思う。

(委員) この提言書が出てから、具体的に何年度に予算案が出るものか。

(教育長) 検討委員会より提言書を1月末くらいにいただけるものと思う。その後、定例教育委員会または臨時教育委員会等でこの提言書について協議し議案の承認をいただいた後に、市長へ報告し3月末までには公に出していきたい。予算の関係についてはその後になると思われる。

(副委員長) 提言書は、この2年間皆さんといろいろ協議したまとめであると思う。「3-2各回概要」をみると令和2～3年度はコロナ禍の影響もあり、地域の説明等は行き渡ってないのではないかと思う。そういった点については、提言書とは関係ないと考えた方がよいものか。提言書には地域との関係についても記載があると思うが、その辺はどうだろうか。

(教育長) 現状ではそこまで決定していないが、今後の地域への周知については提言書をいただいた後に検討していきたい。事前の説明会だけでなく、こういう方向性で行きますとなったときは、市長まで了解を得なくてはならないためその辺は時期を考えた中で進めていきたい。

(委員長) 委員の貴重な意見を今度は提言書という形で盛り込んでいき、次回検討委員会の中で提言書の検討をしていきたいと思うのでよろしくお願いいたします。本日は貴重な意見をいただき感謝する。

(以上)

次回の開催は令和6年1月を予定しています。